

【目的】我々が日常着用する衣服の柄は種々ある中、特に縞模様は、一番簡単に変化をつけることができるため昔から広く用いられており、これまでも多くのこれに関する研究が行われてきた。縞柄は間隔・配色により表情が変化し、衣服のもつ雰囲気も人の好みも異なると思われる。本研究では、等間隔の縞と同色で縞の分量を変えた場合、さらに色の配置転換を行った場合の、縞柄に対するイメージや嗜好観の相違性について調べ検討した。

【方法】はっきり、ぼんやり、女性らしい、男性らしいイメージを持つ三色配色を C・Gを用い縞模様を利用した。1) 対象 20～22歳の女子学生51名 2) 試料 日本色彩研究所の配色カードを参照し、C・G内の色相、明度、彩度の数値設定を変え調整したほぼ100%類似した色見本を基本に、それぞれの配色について、同幅の縞(縞Ⅰ)、幅の分量を変えた縞(縞Ⅱ)を作成し、さらに配置転換を行い登録したもの 3) 方法 アンケート用紙を用いた選択法及び記述法(C・G画面上でそれぞれの縞を見ながらの回答) 4) 調査内容 縞Ⅰ、縞Ⅱのイメージ、嗜好率とその理由などについて調査を行い、考察した。

【結果】「単色では好みであっても、それを組み合わせると気に入らない」「同幅の縞で不調和が感じられた配色でも、縞の分量が変わることにより解消される」「3色中2色が嫌いなためその配色は好まないが、配置転換を行い、好みの1色が主調色になると嗜好率が上がる」などということがわかった。縞の分量では同幅の縞Ⅰより分量を変えた縞Ⅱが好まれる傾向にあり、さらに色の配置転換では縞の好みの基準は主調色にある場合が多かった。このように、縞柄では配色の方法や配置転換が大きく影響していると考えられる。